

# 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2894900055		
法人名	但南建設株式会社		
事業所名	グループホームたんなん		
所在地	兵庫県朝来市山東町柿坪1-1		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	2010年3月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成22年1月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

四季を感じられる大きな庭と施設らしくない外見や歩いていける所に畑があって作る、収穫、食べるを楽しんだり出来る環境。日々の生活は利用者さんが役割を持つ事により生活に張りが出るよう心がけ、一日一回は大きな声で笑い合い、ワイワイガヤガヤとにぎやかで言いたいことが言ってもらるようにしています。外出の希望が多く計画段階から利用者に関わり楽しんでもらうようにしています。利用者の家族関係や家族の思いをしっかりと受け止め、共に利用者から信頼して頂けるようコミュニケーションを図っています。かかりつけ医や訪問看護と連携し医療面での不安を減らし安心して暮らして行けるように努力しています。閉鎖的にならないように地域の人を行事に招いたり地域の行事に参加させてもらっています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

純和風の広い庭と木造建築の建物は周囲の田園風景に溶け込み、利用者は季節を感じながら生活できている。所長や管理者を中心に、利用者の笑顔が出る介護を目指して職員は思いを一つにしている。自己評価は全員で取り組んだので、利用者への接し方などについて職員の主体性と積極性が見られるようになった。運営推進会議では活発な意見が出され、ホームの行事の実施には全面的な協力が得られた。利用者、家族、地域住民、医療機関や他のグループホーム利用者など100人近い参加者と喜びを共にでき、行事を通じて地域の中で見守られ支えられているという実感がもてた。また、職員が利用者を立ち会い人としてホームで結婚式を挙げるなど、利用者職員との関係は良好である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム会議や日常業務の中で伝え常に確認をしている。又、玄関に理念を掲示し来所者、職員が見られるようにしている。新入職員には入職時等に教育している。	日々の業務の中で話題に出し、職員同士で確認しあっている。さらに月1回のユニット会議で全員で理念の実践を評価し、共有している。	職員が個々に理念実践の評価を続け、より分かりやすい言葉で具体的に実践できる表現を用いたいと考えている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時等近所の方から声を掛けていただいたり、野菜等を頂いている。地域の地蔵祭りや小学校の運動会、とんど等に参加させてもらっている。又、小学校のボランティアの受け入れを行っている。	利用者は地域のクリーン作戦などに参加し、地域の住民として活動している。前庭でのホームの行事には多数の住民が来訪し、利用者との交流を深めた。小学校との交流は続き、運動会への参加や夏休みボランティアも20人近く受け入れた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお地蔵さんの掃除やクリーン作戦に参加している。音楽の催しやバーベキューを開催し地域の人が立ち寄りやすい雰囲気を作っている。月一回の新聞を各戸に配布している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に開催している。メンバーは行政(市高年福祉課、高齢者相談センター)、地域(民生委員、地区住民)、医療機関、家族及び職員で構成して、サービスへの実際や評価への取り組みについて意見を聞いている。	2ヶ月に1回開催。利用者は出席していないが、家族、民生委員、医療関係者や行政等で構成されている。出席者からは毎回積極的な意見が出され、収集した情報はサービスの向上や運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	契約の事やサービスの向上に係る事、感染症について市高年福祉課に相談している。又、困った事などは市地域包括支援センターに相談したり、地域ケア会議に出席したりしている。市から入所についての相談も聞いている。	地域ケア会議や地域まちづくり会議にも出席し、日常的に市担当者とは連携がとれている。市からは虐待ケースなどの入居相談なども寄せられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指している。家族にも拘束に当たる内容を説明し理解してもらえるように努めている。	玄関の開錠を含めた身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいる。それに伴うリスクなどを家族や運営推進会議で話し合い、信頼関係のもとに実践している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に高齢者虐待防止の研修を行なっている。特にグループホーム内では虐待を見逃さない様注意を払い防止につとめている。	高齢者虐待防止法等の研修は定期的実施している。日々の何げない言葉かけにも、利用者の心を傷つけない言い方をしよう心掛けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から成年後見制度の利用相談を受け説明し、行政書士を紹介した事もある。 成年後見人がついている利用者もいる。	成年後見制度のケースは1件ある。ケースを通して権利擁護に関する知識を深めている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明を丁寧に行なっている。家族、利用者の不安、疑問は契約時に限らずいつでも相談にのっている。	契約時には、利用者や家族が納得されるまで時間をかけて説明している。また介護保険制度の改定についてきめ細かく説明し、小さな疑問にもよく対応している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は出来る限り利用者に話を聞き不満や意見がないかを知るようにしている。内容については職員に伝え、ケアに役立てている。	利用者や家族とは、日常的にコミュニケーションが取れる関係づくりをめざし、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や意向は職員で検討しケアに反映させている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のグループホーム会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回のユニット会議などで職員からの提案をまとめ、全員で検討を重ね、サービスの向上に反映させている。紙パンツから布パンツに変更できたケースが2件あった。	行事内容やケアの方針などについて、職員から意見や提案は積極的に出され、より良い介護を目指して取り組んでいる。今後も職員の主体的な介護姿勢は続けてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット2階に事務所兼休憩室を作っている。管理者が職員の相談に乗る事もある。職員は年齢にとらわれず各種資格取得に挑戦している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	全職員に外部、内部での研修参加を推進している。参加できなかった職員にも共有できるよう報告書を提出してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会への参加。グループホーム主催の音楽会に他施設を招待している。職員には実習、研修を通じて同業者と交流を深める機会を設けている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談で家族の話をも十分に聞き、必ず利用者施設に来ていただき面談すると共に施設の雰囲気を感じてもらっている。		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な時は何度でも相談を受け十分時間をかけて困っている事、将来への思い等を良く聞き受けとめ入所する事に対する罪悪感を持たれないように努めている。		
17	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に出来る限り本人家族の状況を把握し、まず何か必要なのか支援の方向性を話し合っていく。		
18	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただき、農園や家事等のリーダーをしていただく事で役割を持ってもらい、自信につながる様にしている。又、季節行事、昔からのしきたり等教えてもらう場面を作っている。		
19	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日々の様子を伝え職員と家族が同じ認識を持てる様努めている。利用者別のアルバムを作成している。		
20	(11) 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの主治医やいきつけの美容室、店へ行っていたらいい。自宅地区の老人会に出席される方もいる。家族以外の友人、知人も気軽に訪ねて来られる。	これまでの生活の継続を目指し、顔見知りの店での買物、美容室の利用や自宅地区の老人会への出席なども送迎している。兄弟、友人、近隣の人などの来訪も歓迎し、継続的な交流ができるような支援を心がけている。	
21	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、レクリエーションや外出など一緒に行なう中で利用者同士が声を掛け合い支え合っている。トラブルになりそうな時は職員が中に入ったり席替えをしたりしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は、病院のソーシャルワーカーと連絡したり、在宅された方は担当介護支援専門員と連絡を取ったりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の言動や家族、介護支援専門員等からの情報により出来る限り、利用者の希望をかなえられる様に心掛けている。	利用者の発言・素振りや表情から表明されていない思いや意向を推し量っている。気づいたことは職員全員で共有し、できる限り希望に添うよう努めている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時にこれまでの生活歴を詳しく聞くと共に担当介護支援専門員に本人の生活の様子を聞く事により利用者の生き方をよりよく知るよう努めている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者、個人個人の生活リズムを大切にその日の体調心理面に配慮し全体像を把握する様にしている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との面談、利用者の言動、日々の様子や定期的なユニット会議で個別援助を話し合い介護計画を作成している。	利用者個々に担当者を定め、より良く暮らせているか常に意識して見守っている。観察記録を職員全員で検討し個別援助に反映させている。介護計画は日々の記録を参考にし、利用者、家族や医師とも話し合い、状態に合わせて作成している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し個人ファイルに保管している。変化があった事や大切な事は申し送りに事項に記録し情報の共有をしている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、利用者や家族の状況その時々要望に応じた対応をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	バーベキュー開催時、町内民生委員がボランティアで参加してくれている。手芸、習字、フラワーアレンジメント、紙芝居等ボランティアさんが来られている。又、消防団、民生委員には緊急時の支援協力をお願いしている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医が、そのまま入所後も主治医として受診している。訪問診療、訪問看護を利用している。	かかりつけ医の受診の支援を行っている。受診の結果は家族に報告している。医師や看護師の往診時は職員から情報を事前に準備し、申し送りを行い、受診後の結果もすべての職員で共有できるよう努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員からの情報を元に、週一回の訪問看護やかかりつけ医に日常の様子を伝えている。指示やアドバイスは職員へ申し送りを行っている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には面会に何度も行って、本人に安心してもらえるようにしている。出来るだけ早く退院できるように病院から情報をもらい環境を整備している。	協力医に何かあればすぐ対応してもらえ安心である。入院中も職員が洗濯物を取りに行く等、常に顔を出し馴染みの関係を保っている。退院の情報を早めにもらって退院後の準備(手すりの設置やポータブルトイレ)をし、早期退院につなげている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針は家族に伝えて、同意を得ている。利用者の状況を管理者が家族、医師等の関係者にこまめに連絡し情報の共有に努めている。	看取りの指針を作成し、ホームの対応について入居時及びその都度話し合っている。看取りはまだ行っていないが、家族と連携しながら、利用者との普段の関係の中で看取って生きたい考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の対応はマニュアル化し周知徹底を図っている。消防署による救急救命法の講習会や外部の看護師による医療についての講習会を開催し実践力を身につけるにしている。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練を利用者と一緒に行ったり、災害時の避難場所の確認等を行っている。区長、消防団、民生委員等地域の方へ協力をお願いしている。	消防署の指導のもと年2回避難訓練を行っている。前回は消火器の使い方の指導を受け、利用者も参加した。区長、消防団、民生委員へ協力依頼をしている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重している。個人情報に鍵のかかる保管庫に保管している。	本人の思いを尊重して、できるだけ時間を決めず、無理強いしないよう努めている。トイレ誘導時等は言葉かけに気をつけ、羞恥心へ配慮している。個人情報は職員入職時に誓約書を交わしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、散歩、外出、買い物など日常生活で利用者の思いや希望を表せるよう働きかけている。自己決定を優先するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムや思いを大切に出来る限り、個別の対応が出来る様心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の行きたい美容室に行っていたいでいる。利用者の好みの身だしなみを日常生活の中でもしてもらえるようにしている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園で野菜を栽培し収穫した材料で献立を一緒に考えたり、食材の買い物と一緒に好き好きな材料で調理をしたりしている。調理から後片付けまで一緒に行なうようにしている。職員は利用者と一緒に食事している。	食材は利用者同伴で買いに行く。近所でいただいたり、ホームの農園で取れた野菜を使って利用者も参加して調理している。素麺流し、クリスマス料理、おせち料理等季節感を取り入れる工夫をして、会話を楽しみながら職員と共に食事している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の不足がちな方には水分チェック表を作り、好みの物で水分を摂ってもらうよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声を掛け自分でされている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の行動観察やさりげない声掛け、誘導をしている。	排便チェックは全員、排尿チェックは必要に応じて行っている。職員の提案で、2名のオムツはずしを試みた。排尿のパターンをつかんで布パンツに移行できた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心にした献立や乳製品、果物を摂ってもらい、自然に排便がつくようにしている。便秘の方にはチェック表を作り腹部マッサージや時間を決めてトイレに座ってもらうなどしている。毎日簡単な体操をしている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行なっている。可能な限り、利用者の希望の時間やタイミングで入浴してもらっている。	入浴は毎日、夜間も可能。ゆず湯や入浴剤を使ったり、時には温泉へ行く等入浴を楽しむ工夫がなされている。拒否する人には時間を変えて、声かけし、週2回は入浴してもらうようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中に散歩をしてもらい、生活リズムを整えてもらうようにしている。日中を楽しく過ごしてもらうよう体操や歌などのアクティビティの工夫をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ケースに個々に入れている。飲んでいる薬の目的や副作用、用法、用量を職員が理解している。また、いつでも確認できるように個々の薬の情報をファイルしている。服薬は飲み終わるまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農園作業や調理手伝い等、得意な事をして頂いている。外出好きな方には買い物等に行ってもらっている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回程度遠方への外出、毎日の散歩、買い物、地域行事への参加等出来るだけ外へ出る機会を設けている。	職員と食材や日用品を買いに行ったり、新聞の集配所まで歩いていくのを日課にしている利用者がいたり、お地藏様まで散歩に行ったり、畑で野菜を手入れしたり、一人ひとりが戸外へ出かける支援がなされている。外食や、喫茶店、花見等にも出かけている。	



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自分で少額の財布を管理されている方と管理者が預かっている方がいる。自分で嗜好品を購入されている。		
51	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという要望には施設の電話で対応している。携帯電話を所持している方や手紙を書いて家族や知人に出されている方もおられる。		
52	(23) 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは庭の景色が見られ、四季を感じる事ができる。共用の室内は清潔を心掛けている。季節に合った手作りのかざりをかざったり、庭の花を生けたりしている。	木をふんだんに使った建物で、幅広い廊下、お庭を眺めながらゆったりできるリビングルーム等居心地よい空間である。食事のテーブルは配置に工夫し、気持ちよく食事できるよう配慮されている。	
53	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、テレビを観たりしている。		
54	(24) 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前から使われていた、タンス、布団等を持って来ていただいている。こたつやテレビを持ち込み居心地良くされている。持ち込む物に制限はせず趣味の物や位牌を居室に置かれる方もいる。	馴染みの品を持ってきてその人らしい自室になっている。パソコンで医療費の計算をされたり、窓際に座って庭を眺めたり、それぞれが心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる事わからない事、出来る事出来ない事を見極めさりげなく対応する。トイレののれんの色を変えたり居室に目印をつけたりしている。		